

里山を活用した子ども自然体験

石神洋一

特定非営利活動法人たかつき
e-mail : ishig@npo-takatsuki.org

Experience of Nature for Children in Satoyama Woodlands

Yoichi ISHIGAMI

NPO Takatsuki

はじめに

里山を活用した自然体験活動をはじめ、今年で11年。はじめたきっかけは、地域の子どもたちに里山の自然の中で遊ぶ楽しさをわかしてもらえたらいいなあ、というシンプルなものでした。子どもたちと一緒に活動を継続している間に「こんなことも面白そう」「あんなことも教えてあげたい」と自然に内容が増えていきました。募集しても子どもが集まらない時期があり、もうやめようかと考えた時期もありましたが、子どもたちの成長と笑顔に支えられ、なんとか続けてきました。

今回、人間・植物関係学会2012年度大会において貴重な発表の機会をいただきましたので、私たちがどのように考え、何を目的に活動を続けてきたかをお伝えできればと思います。この原稿を書かせていただきました。

1. 特定非営利活動法人たかつきの紹介

平成13年5月創設

法人の理念：①生きる力を応援する、②人・こころ・生命を大切にする

事業内容

デイサービスセンター晴耕雨読舎（平成19年～）

街かどデイハウス晴耕雨読舎（平成13年～）

たかつき子ども自然体験学校（平成13年～）

里山わんぱく冒険隊（平成16年～）

園芸福祉・園芸療法事業（平成13年～）

→初級園芸福祉士養成講座

→他施設・病院との契約園芸療法

→講演活動

里山保全活動（平成13年～）

2. 特定非営利活動法人たかつきの自然体験活動

(ア) たかつき子ども自然体験学校

対象：幼稚園年長～小学生 15～20名程度
（おもに高槻市内の子どもたち）

スタッフ：有給スタッフ3名、ボランティア数名

活動頻度・時間：毎月第3日曜日10時～15時

活動場所：おもに高槻市阿武山周辺 8月と2月に京都府美山町に遠征

テーマ：里山の自然の中で、さまざまな体験をすること

(イ) 里山わんぱく冒険隊

対象：小学生 15名程度（おもに高槻市内の子どもたち）

スタッフ：有給スタッフ3名、ボランティア数名

活動頻度・時間：毎月第4日曜日10時～15時

活動場所：おもに高槻市阿武山周辺 8月と2月に京都府美山町に遠征

テーマ：自然の中で、自ら考え、行動できる子どもになる

(ウ) 京都府美山町での田舎体験

上記2種類の活動の一環として、8月と2月に京都府美山町に遠征をして定期的に田舎体験をしている。

3. なぜ子どもの自然体験活動を続けているか

この発表をするにあたって、なぜ当法人が子どもの自然体験活動を10年以上も続けているのか考えました。一番の喜びは、自然の中で子どもたちが成長していくのを、間近に見られることで、それが活動を続ける原動力になっています。「虫をさわれなかった子が、虫を捕まえられるようになった」「火をおこしてご飯を炊けるようになった」「お父さんよりノコギリを使うのが上手になった」「怖いと思っていたカエルにさわられるようになった」など、自然の中で少しずつ子どもたちが興味を広げ、自分の世界を広げていく感動と一緒に共有でき、それが子どもたちの生きる力になっていることを実感できていることが、活動を継続でき

2012年8月11日受付。
本稿の一部は2012年6月23日に行われた人間・植物関係学会2012年度大会において発表した。

ている大きな理由です。

4. 里山における自然体験活動で大切にしていること

(ア) 体験すること

①山の体験

主な活動フィールドとなる里山（阿武山＝281.1m）に入り、自然の中で季節の移ろいを体験します（第1図）。春はイタドリ、ワラビなどの山菜とり、野イチゴ摘み。初夏から秋まではふもとで虫とり。秋にはドングリをさがして、ドングリ独楽選手権。冬には山から薪を集めて火おこしをして棒パンづくり。植物や昆虫、野生動物との出会いを通して山の自然に親しみます。



第1図. 里山散策.

②畑の体験

専用の畑を活用して、春と秋の2回野菜作りを体験します。畑での活動を通して、子どもたちは自分で種をまき、育て、収穫した野菜を自分で食べる体験をします（第2図）。秋から育てるダイコンは、12月の親子参加活動の際に、トン汁の材料としてみんなで食べます。8年ほど前、ダイコンの種まきをするときに、本物のダイコンを見



第2図. ダイコンの収穫.

せながら「このダイコンつくるのに何個種がいると思う？」と冗談で質問をしたことがありました。ダイコン1本につき1個が当たり前ですが、中には「いくつかなあ〜」と真剣に考える子どももいました。子どもたちの中には、野菜を育てる経験をしたことがない子もいます。農業体験の大切さを強く感じた出来事でした。

(イ) 怖いものとの出会い

里山での遊びは楽しいことばかりではありません。山の中には危険な虫や動物も棲んでいます。当方の自然体験活動では、例年生き物が活発に動き出す5月ごろに、地域の里山に棲むマムシ、スズメバチ、ムカデなどの危険生物についての話をします。そして山の中で実際にそれらの生き物たちに出会うことで、自然の中には人間にとっては危険で不都合なこともあるという、当たり前の摂理を学ぶ機会になっています。

(ウ) つながりを知り、大切にすること

私たち人間は、自然や人など様々なものとのつながりの中で生かされています。虫とりや昆虫標本づくりをとおして、生き物とつながり、山の中の「自分の木」さがしや野菜作りを通して植物や土とつながり、もちつきやしめ縄づくりをとおして伝統や地元のお年寄りにつながり、夏冬の京都府美山町への遠征で、田舎の人や自然とつながる。つながりを知り、つながりを大切にすることができれば、自分やまわりを大切にすることができると考えています。

(エ) 気づき、感じ、考え、行動すること

自然体験の中では、自ら気づき、感じることを大切にしています。そのため、活動の際決まったプログラムをするだけでなく、自ら気づく時間、感じる時間をしっかりとるようにしています。

例えば「この2時間は山で過ごす」という時間をとります。子どもたちは、最初は何をして良いか迷いますが、生き物探しの方法や木の実の見つけ方など、少しヒントを与えてあげれば、すぐに自分の興味のあることを見つけ出せます（第3図）。朽ち木をほじくって潜んでいる虫をさがす子、石をひっくり返してムカデをさがす子、きれいな木の実や木の葉をさがす子、食べられる物をさがす子など、里山の自然の中には、子どもたちの好奇心を満たす楽しい出来事がたくさんあります。

自然の中で、子どもたちが気づき、感じる時間をしっかりとることで、子どもたちは心を開放し、自ら考え、自分の興味に合わせた行動をとることができるようになります。



第3図. 山での発見.

5. 最近の子どもに感じること

生活の場と自然との乖離が進んでいると感じています。

自然体験活動に参加する子どもたちの中にも、自然の中に入って何をしても良いかわからない子、虫がさわれない子、土を汚いと思っている子がいます。子どもたちは親の姿を見て育っているのです。親の世代が虫や自然と離れた生活を送ってきているのだと思います。

「虫がさわれない」や「虫嫌い」の子の多くは、ただ体験が乏しいだけということが多くあります。何度

か活動に参加して、他の子が虫をとるのを見たり、実際に虫にさわってみたりすることで、虫に興味をもちはじめ、最初「ムシ〜!」と言っていたのが「これはショウリョウバッタ、これはキリギリス」と、虫にはいろいろな種類があり、それぞれ違いがあるということがわかるようになります。こうなれば、虫嫌いは解消してしまいます。同じように、土を汚いと思っている子や、地面に直接座れない子も、何度か山の中でお弁当を食べたり、手を洗えない環境で過ごすことで、なんとなく抵抗感がなくなってきます。

「知らない、やったことがない」ことは問題ですが、幼少期に自然の中でいろいろな体験をし、自然や植物、虫たちとしっかりとつながっておくことで、このような問題は解決できます。

6. 今後やっていきたいこと

人間生活と自然との乖離が進む中、ますます自然体験が重要になってくると思います。幼少期に自然とのつながりを知っている、体験している子どもたちは、大人になってもすぐに自然とつながることができません。人と自然のつながりを知り、自然を大切にできる子が世の中に増えていくように、これからも自然体験活動を続けていきたいと思っています。